

館長のガラストーク

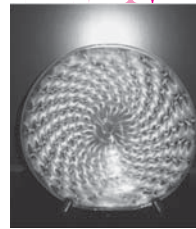
“妖精の森ガラス”の歩み展から

今回は、出品作の内、そんなに大きくない作品を取り上げてみます。

- ①赤澤清和「クロウガラス」2003年 円筒形の器の外側に、カラス(クロウ)のくちばしみたいな突起が出ています。突起の内側は空洞になっていて、円筒形の中に息を吹き込んでいるときに外からつまみ出したもの。ローマ時代後期の作品を原型にしています。
 - ②内田守「レース皿」2008年 ウランガラスと白色ガラスを熱いうちにねじりながら引っ張ってらせん状の模様が入った棒ガラスを作り、それを熱いガラスの塊の外側に貼り付け中に息を吹き込んでガラスを薄く延ばして作ります。
 - ③石田彩「削出高坏(けずりだしのかつぎ)」2011年 切子はふつう模様の部分を削っていきませんが、削出は模様の部分を残して周りを削ります。この作品では六つの突起を残して周りを削り取ったもので、根気強い、丹念な仕事の成果です。
 - ④NARUTOより「螺旋丸」2013年 美作国1300年を記念して奈義町出身の岸本斉史氏の「NARUTO」展を開催した際に、当館の工房で制作したもの。螺旋丸はNARUTOに出てくる技の一つ。手の平にチャクラを乱回転させて圧縮し、それを相手にぶつけることで、相手にらせん状の傷を負わせながら吹っ飛ばすというもの。ウランガラスに白い棒ガラスで模様を入れたものに、さらにガラスを重ねて作ってあります。
 - ⑤日浦佑記「杯」2014年 やや大きめの脚付杯に丹念に円形切子を加えています。この技法は紀元6世紀ごろ古代ペルシャで用いられていたもの。器の側面に円形の切子を連続して施していくと、円と円が重なる所が六角形の亀甲模様を形作ります。
- 様々な作風のガラスを集めたこの展覧会は、3月30日(月)まで開催されます。



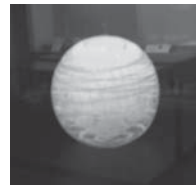
赤澤 清和
「クロウガラス」



内田 守
「レース皿」



石田 彩
「削出高坏」



ナルト
「螺旋丸」



日浦 佑記
「杯」

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

展覧会情報「館蔵品でたどる…“妖精の森ガラス”の歩み」展 2015年1月21日(水)～3月30日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888

『パパとママのヒューマン・コミュニケーション講座』

～人間関係を何倍も良くする「聴く力」を高める～

すてきな子どもを育てるために…

講師：鳥取大学医学部 高塚人志准教授

日時：3月22日(日) 10:00～12:00 開場9:30

場所：鏡野町文化スポーツセンター 研修室

定員：50名 入場は無料です。(要申込み)

申込締切：3月10日(火)

託児：有り・無料(要申込み)

お問い合わせ・申込先(託児の申込みもこちら)

鏡野町子育て支援センター 電話・FAX(0868)54-4035

主催：鏡野町子育て支援センター 共催：鏡野町・鏡野町教育委員会

家庭の在り方について、夫婦の
向き合い方を見直してみませんか？
ご夫婦でぜひご参加ください。

これから
家庭を持つ人や、
一人での参加も
お待ちしております。

